高生の丘

北九州市立高生中学校
学校通信　６月号　No3
発行責任者　校長　寺田　訓康
TEL　８８１－３２７６
平成２７年５月２７日発行

■ 多くの学びが得られた宿泊行事。

≪農泊（２年）と修学旅行（３年）大成功≫

５月１２～１４日に２年生は農村宿泊体験学習に、２１～２３日に３年生は修学旅行に出かけました。学年での取組も始まり楽しみにしていた人も多かったのではないでしょうか。

農泊は、農家の方の家に泊まり、一緒に農作業をするなど町ではできない体験をしました。台風が心配されましたが、２日目からは天気にも恵まれました。最後に農家の方がバスを走って追いかけて見送ってくれたのも印象的でした。

修学旅行は天気に恵まれ、目標である「古き日本の歴史を学び最高の思い出を作ろう」が達成できたのではないでしょうか。最終日の「人と防災未来センター」での皆さんの真剣な眼差しが忘れられません。

どちらの行事も皆さんにとって忘れられない良い思い出になって欲しいものです。また、授業の一環として行いますので、ただ楽しむだけではなく、学習面では、教室で学んだことを実際に体験して感じ取り、生活面では、社会のマナーや友達との接し方を身に付けて欲しいと思っています。

ハウスの中で初めて鍬を使って耕しています。（農泊）

金閣寺はすごく混んでいました。（修学旅行）

■ 期末考査に向けてがんばろう！

≪早めの取り組みで成果をあげよう！≫

６月１７日（水）～１９日（金）に１学期の期末考査が予定されています。「またテスト？」って思うかもしれませんね。でも、このテストをきっかけに授業中や家庭学習の姿勢を見つめなおすきっかけにして欲しいと思います。５月は遅刻をせず、チャイム席を守ろうと学習委員会も取り組んでくれました。今どの学年も良く頑張れていると思います。特に１年生は、自治委員がみんなに「もうすぐ授業だから席に着こう。」と呼びかけている姿を見て大変頼もしく、嬉しく感じました。

テストでよい成績をとることはもちろん大切ですが、テストをきっかけに自分の勉強に対する姿勢を見直して欲しいと思います。

※教科担任の先生からお話があったと思いますが、通知表の成績はテストの点数だけでは決まりません。提出物を含めた、普段の授業への取組が大切になります。

■ ふれあい合宿も成功させよう！

≪友情を深め、規律を身に付けよう！≫

期末考査が終わると１年生は「かぐめよし少年自然の家」へふれあい合宿へ出かけます。

福智山登山やキャンドルの集いなどみんなで協力して行事を成功させて欲しいと思っています。集団生活で行事を成功させるには「がまん」が必要です。自分のやりたいことではなく、皆がして欲しいことは何なのか考えて行動できると素晴らしいですね。そのためにも、積極的に友達の良いところを見つけていくと良いと思います。

ぜひこの行事を通して、１年生の皆さんがお互いに友情を深め、楽しさの中にも規律のある集団への一歩となって欲しいと先生たちは願っています。

■ 積極的に教育相談を活用してください。

期末考査前の６月８日（月）～１２日（金）にかけて教育相談が予定されています。これは、新しい学年になって皆さんが何か困ったことはないのか、もしあれば先生たちも解決に協力したいので話を聞かせてくださいという期間です。友達のことや勉強のこと、進路のことなど悩んでいることがあったら先生たちに相談してください。みんなで解決に向けて取り組みましょう。

■ ６月の主な行事です。

６月　４日（木）　眼科検診
（1年生全員と2，3年の該当者）
５日（金）　生徒総会
８日（月）～１２日（金）教育相談
１７日（水）～１９日（金）期末考査
１５日（月）～７月１０日（金）
第２期教育実習（国語科）
２６日（金）～２８日（日）
ふれあい合宿（１年）
２９日（月）３０日（火）
１年生疲労回復日

六月の目標

「高生中授業規律スタンダードを守って期末テストを頑張ろう！」

（高生中授業規律スタンダードは裏面に乗せています。）

５月の目標「遅刻をせずに、チャイム席を守って規則正しい生活を」できたと思います。２ヶ月続けて目標を達成できましたね。素晴らしい！

高生中授業規律スタンダード

１　チャイム席を守る。
２　姿勢を正しくして挨拶をする。
３　顔をあげて話を聞く。
４　忘れ物をしない
５　私語もしない。

の５つです。しっかり守って、期末考査に備えましょう！

４月２６日付の毎日新聞の記事です。意欲的な英語の授業の様子が記されています。自分の考えを述べるようになることが、これからの国際社会を生きる皆さん達中学生の課題ではないかと書かれています。皆さん達は、どのように考えますか？ぜひ皆さんの意見を聞かせてください。

また、この記事以外でも何か気づいたことやご意見があれば下に記入して是非校長室に届けてください。（お家の方からのお手紙もお待ちしています。お名前は匿名でもかまいません。）

年　　組　　番
氏名

プン&ぺん

英語授業の見学記

グローバルな人材が求められる時代に日本人はなぜ、英語が話せないのか。学校教育が関係しているのか。そんな思いの中、年度末の3月、戸畑区の市立高生中学を訪れ、英語の授業を見学した。

「レッツ・スタート・ペラペラタイム」と男性の日本人教師が促す。1年生約30人が2人1組で暗記した英語の文章を語り合う。とても流ちょうだ。教師が日本語を示すと多くの生徒が競って手を挙げ、英語に翻訳する。懸命に覚えたであろう正確な英語がスムーズに出てくる。中学生の姿勢は受け身だと聞いていただけに活発な生徒の姿勢にちょっと驚いた。

次にＡＬＴ（外国語指導助手）の米国人女性、リア・グラソー先生が英語の伝言ゲームでリラックスさせた。子供たちは笑顔で楽しんだ。

「日本とアメリカの学校の違い」をリア先生が語った。「アメリカではホームルームの時間はありません」「生徒は掃除をしません」と説明するたびに生徒からどよめきが起きる。日米の学校文化の違いは米国人のＡＬＴだからこそ話せる。

授業の締めくくりにリア先生は「Ｄｒｅａｍ ｓｃｈｏｏｌ（夢の学校）」についてそれぞれの独自の思いをプリントに書くように指示した。

それまで積極的だった生徒の姿勢がここで鈍った。ペンが進まない。「夢の学校の名前は」「校長は誰がいい」「何を着て行く」「そこで何を学びたい」。リア先生が考えた質問に大半の生徒が空欄のままだ。結局、「Ｄｒｅａｍ ｓｃｈｏｏｌ」は宿題となった。

「クラスメートの目を気にして自分の意見を出すことにシャイですね」とリア先生は感じている。「それは英語だけの問題ではない」と当時の木村康晴校長＝4月から市立戸ノ上中学校長＝は説明した。

つまり、外国語どころか、日本語でも自分の意見を示すことに生徒が慣れていない。それは日本人がどんなに英語の単語や文法を覚えても、英語が話せないことにつながっているのではないか。

自由に意見交換する環境こそがグローバルな人材を育てることにつながる。教室でも家庭でもそんな雰囲気を作ることが大切だ。木村校長と意見が一致した。【松田幸三】